

# 座席行動の研究 (II)

## — 教室内の座席行動と性格特性 —

北川 歳 昭

### 問 題

個人が、一定の行動空間の中で、物的人的環境と相互作用しつつ、自己の意志で着席位置を選択し決定する心理的行動的過程を「座席行動 (seating behavior)」と呼ぶ。座席行動は、空間行動 (spatial behavior) ないしプロクセミックスに含まれるが、その行動空間が椅子 (座席) の存在によって限定性をもっていること、すなわち、椅子の数・配置間隔・向きなどによって空間位置の選択の自由度が制約されていることが座席行動の特徴であるといえる。

授業時の着席位置を任意に選択できる大学の教室はまさに典型的な座席行動空間である。教室内の座席位置が学生の心理を知る上での重要な手掛りになることを、注意深い教師ならば経験的によく知っているものである。しかし、教室での座席行動についての規定要因や一般的法則の解明をめざした実証的な研究は少ない。

平尾ら (1964) は、講堂での授業における医学部学生の座席位置を2ヵ月間追跡し、全体の座席分布に対する各学生の位置や移動の特徴から、座席行動の個体差の類型化を試みた。さらに、少数例ではあるが、この類型と学業成績、個人的事情やパーソナリティー、その後の分裂病発病との間に関連性のあることを指摘している。

また、同じ研究文脈の中で、深沢ら (1965) は、講堂での音楽療法に参加した精神病患者の座席位置を1年間追跡し、座席行動の類型と症状との対応、看護学生や医学生との比較による分裂病患者の座席行動の特徴を見出した。

ソマー (1972, pp 185-197) は、座席行動と討論への参加に関連性があることをいくつかの資料を示して主張している。すなわち、①セミナー室での口字形テーブルに対する座席位置と発言回数では、教師に直面して座っている学生の方が横の席に座っている学生より自発的発言回数が多い、②伝統的な並列座席配置 (straight-row arrangements) の教室では、前列の学生は後方の学生より参加状態がよく、討論の多さと教師への近さの間には直線的な相関がある、③教室を中央部と側面部に分けた場合、中央の学生は側面の学生よりも参加状態がよい、④最前列は敬遠され気味である、などである。

以上は、渋谷 (1975) による空間行動研究法の分類でいうならば現場調査研究に相当するが、座席行動に関する実験的研究は多くなされてきた。

Cook (1970) は、学生と一般人に対し、いろいろな社会的事態の場合、2人の人物が長方形または円形の机に対してどのような位置に座るかを推測させ、2人の社会的関係や事態によって座席位置を変えることを見出した。ソマー (1972, pp 104-109) も同様の実験を大学生と児童に試み、2人の座席位置の推測には被験者の年齢差や性差が関るとしている。中園 (1970) は、看護学生を対象に paper-pencil test 法によって、選択する座席の位置と向きが対人関係の種類によって異なること、被験者の性格類型 (Y-G 性格検査使用) と選択する座席位置と関

りをもっていることを見出している。

さて、前報告（北川，1978）で考察したように、教室内での座席行動の場合、教師一人対学生集団という場面ではあるが、各学生の座席位置を、その学生が教師との間におく対人距離（inter-personal distance）ないし spacing の行動的表現、とみなすこともできる。

一方、対人距離や個人空間（personal space）が、その個人のパーソナリティー要因に規定されていることを示唆した研究はいくつかある（Evans & Howard, 1973; 渋谷, 1975）。

ソマー（1972, pp 51-53）によると、①内向的な学生は外向的な学生よりも距離を大きくおいて対話しようとし、②緊張を強いられる教示をうけた学生は教師から遠くに座ろうとし、内向的で不安をもった者もより遠くに座ろうとする、また、③分裂病患者は一般に自分と他人との距離をより大きくとる、という。

田中（1973）は、内向群が外向群よりも、個人空間のすべての方向で大きな対人距離をとり、その差は特に正面方向で大きいことを見出している。

座席行動の規定要因を探索する上でも、教室の座席位置が教師との対人距離に還元できるか否かを検証する意味でも、座席行動と性格特性との関係を吟味することは意義が大きいと考えられる。

そこで、本稿では、教室内での学生の座席行動が座席位置に対する好悪感情と一致していることを確かめるとともに、Y-G 性格検査を用いて性格特性との関連について吟味した調査の結果を報告する。

## 方 法

### 〔1〕調査の対象と時期

短大保育科1年生3クラス188名（全員女子）に対して、矢田部・ギルフォード性格検査を1978年7・9月に、「座席行動調査」を同年12月に実施した。そのうち、資料が完全であった161名について集計と分析を行なった。

### 〔2〕座席行動調査

クラス単位（講義形式）の授業の時の座席位置について質問した。質問項目は、①「あなたの座席位置はよく動く方ですか」（7段階の自己評定をさせた）、②「あなたがいつも座っている座席（どちらかといえば座る回数が多い座席）はどこですか」（通常位置）、③「教室にまだだれも座っていないとしたら、あなたはどこに座りたいですか」（希望位置）、④「一番座りたくない席はどこですか」（忌避位置）、⑤「クラスで一番仲の良い友人がいつも座っている座席はどこですか」（友人位置）、などであった。②～⑤の質問に対しては、図1のように教室の座席位置を7×7の49区画に分け、その中から各1区画のみを座席区画番号で答えさせた。（なお、以後は、「前後区画列」を前後列（front-rear row）、「左右区画列」を左右列（right-left column）と略称する。）

### 〔3〕教室の状況

学生の使用する教室のほとんどは教卓に向って左側が南で、入口は左側の前後にあった。教室の定員（座席数）は70～100名であり、座席の配置は全て並列配置で教卓と対面していた。座席の決定は学生の任意であった。

|          |      | 教卓    |      |      |      |      |      |        |          |  |
|----------|------|-------|------|------|------|------|------|--------|----------|--|
|          |      | 左右区画列 |      |      |      |      |      |        | 各前後区画列の計 |  |
| 前後区画列    | 17   | 16    | 15   | 14   | 13   | 12   | 11   | 1・     |          |  |
|          | (2)  | (1)   | (1)  | (1)  | (2)  | (2)  | (0)  | (9)    |          |  |
|          | 27   | 26    | 25   | 24   | 23   | 22   | 21   | 2・     |          |  |
|          | (1)  | (9)   | (11) | (6)  | (10) | (2)  | (2)  | (41)   |          |  |
|          | 37   | 36    | 35   | 34   | 33   | 32   | 31   | 3・     |          |  |
|          | (2)  | (3)   | (8)  | (7)  | (7)  | (5)  | (2)  | (34)   |          |  |
|          | 47   | 46    | 45   | 44   | 43   | 42   | 41   | 4・     |          |  |
| (7)      | (5)  | (5)   | (1)  | (10) | (6)  | (4)  | (38) |        |          |  |
| 57       | 56   | 55    | 54   | 53   | 52   | 51   | 5・   |        |          |  |
| (3)      | (2)  | (7)   | (3)  | (3)  | (6)  | (2)  | (26) |        |          |  |
| 67       | 66   | 65    | 64   | 63   | 62   | 61   | 6・   |        |          |  |
| (0)      | (2)  | (4)   | (3)  | (1)  | (0)  | (1)  | (11) |        |          |  |
| 77       | 76   | 75    | 74   | 73   | 72   | 71   | 7・   |        |          |  |
| (0)      | (0)  | (0)   | (1)  | (1)  | (0)  | (0)  | (2)  |        |          |  |
| 各左右区画列の計 | ・7   | ・6    | ・5   | ・4   | ・3   | ・2   | ・1   | ・・     |          |  |
|          | (15) | (22)  | (36) | (22) | (34) | (21) | (11) | (161人) |          |  |

図1 座席区画番号(11~77)による座席位置の表示および各区画への通常位置選択者数

## 結 果

### 〔1〕相関係数と有意性検定について

座席行動各指標相互の相関係数を表1、座席行動指標とY-G検査による因子得点・系統値との間の相関係数を表2に示す。

前後性(f)とは、座席位置が前寄りか後寄りかを表す指標で、最前列を1.0、最後列を7.0に重みづけしている。前後両端性(fs)とは、その座席が前後方向の中間からどの程度離れているかを表し、各個人の前後性から前後性の全体平均値を引いた値の絶対値である。左右性(r)とは、左寄りか右寄りかを表し、左端列を7.0、右端列を1.0に重みづけしている。左右両端性(rs)とは、左右方向での中間からの距離を表し、各個人の左右性から左右性の全体平均値を引いた値の絶対値である。移動性(Sh)については、「よく動く」を7.0、「きまっていて動かない」を1.0に重みづけしている。

相関係数の有意性の検定はt値変換によった(肥田野ら, 1961)。全般的に相関係数値は低いが、自由度が大きいため(df=159)、「無相関とはいえない」という意味での有意性は得ることができた。

### 〔2〕座席行動指標について

#### (1) 通常位置

通常位置(U)の選択分布(図1, 図2・U)は、前報告(北川, 1978)と同じく、教室の四隅が少なく、前寄り中央部に最も多くなっている。この分布図で注目したいのは、その分布に3つのピークがあることである。左右方向への投影図(図3)をみると、左右の中央にV字形の落ち込みのある二峰形の分布になっていることがわかる。

表1 座席行動指標相互の相関表

|                 |             | 座席移動性<br>(Sh)        | 通常位置                 |                      |                     |                      |
|-----------------|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
|                 |             |                      | 前後性<br>(Uf)          | 前後両端性<br>(Ufs)       | 左右性<br>(Ur)         | 左右両端性<br>(Urs)       |
| 通常位置            | 前後性 (Uf)    | .419 <sup>***</sup>  |                      | .149 <sup>(*)</sup>  | -.044               | .029                 |
|                 | 前後両端性 (Ufs) | -.166 <sup>*</sup>   | .149 <sup>(*)</sup>  |                      | .051                | -.126                |
|                 | 左右性 (Ur)    | .059                 | -.044                | .051                 |                     | -.018                |
|                 | 左右両端性 (Urs) | .085                 | .029                 | -.126                | -.018               |                      |
| 希望位置            | 前後性 (Pf)    | .481 <sup>***</sup>  | .700 <sup>***</sup>  | -.004                | -.039               | .178 <sup>*</sup>    |
|                 | 前後両端性 (Pfs) | -.022                | .127                 | .579 <sup>***</sup>  | .009                | .000                 |
|                 | 左右性 (Pr)    | .036                 | -.048                | .083                 | .590 <sup>***</sup> | -.064                |
|                 | 左右両端性 (Prs) | .070                 | .074                 | -.144 <sup>(*)</sup> | -.062               | .555 <sup>***</sup>  |
| 忌避位置            | 前後性 (Af)    | -.257 <sup>***</sup> | -.341 <sup>***</sup> | .100                 | .019                | -.019                |
|                 | 前後両端性 (Afs) | -.196 <sup>*</sup>   | -.199 <sup>*</sup>   | .044                 | .073                | -.061                |
|                 | 左右性 (Ar)    | -.103                | .035                 | .019                 | .034                | -.085                |
|                 | 左右両端性 (Ars) | -.142 <sup>(*)</sup> | -.240 <sup>**</sup>  | .177 <sup>*</sup>    | -.057               | -.285 <sup>***</sup> |
| 友人位置            | 前後性 (Ff)    | .340 <sup>***</sup>  | .822 <sup>***</sup>  | .143 <sup>(*)</sup>  | -.059               | .004                 |
|                 | 前後両端性 (Ffs) | -.359 <sup>***</sup> | -.346 <sup>***</sup> | .696 <sup>***</sup>  | .097                | -.178 <sup>*</sup>   |
|                 | 左右性 (Fr)    | .000                 | -.118                | .098                 | .771 <sup>***</sup> | -.070                |
|                 | 左右両端性 (Frs) | -.046                | -.022                | -.017                | -.097               | .440 <sup>***</sup>  |
| 通常と希望の距離 (D-UP) |             | .041                 | .283 <sup>***</sup>  | .224 <sup>**</sup>   | .026                | .112                 |
| 通常と忌避の距離 (D-UA) |             | -.165 <sup>*</sup>   | -.151 <sup>(*)</sup> | .407 <sup>***</sup>  | -.041               | .111                 |
| 通常と友人の距離 (D-UF) |             | -.159 <sup>*</sup>   | -.045                | .225 <sup>**</sup>   | .049                | -.053                |

(\*) p<.1    \* p<.05    \*\* p<.01    \*\*\* p<.001

(2) 希望位置

希望位置 (P) の分布 (図2・P) は、通常位置の分布に類似しており、左右方向では二峰形を示すが (図3)、通常位置より前寄り左右中央寄りに若干集中する傾向がある。

個々の学生についてみると、通常位置と希望位置とは一致度が高く、完全一致の者が32.9%、一区画以内の差の者は70.2%であり、両者の相関係数は非常に高い (表1)。学生は自分の希望どおりの席に通常座っている、と考えてよいだろう。

また、表1より、通常、左右の中央に座っている者は前列を希望し、左右の端に座っている

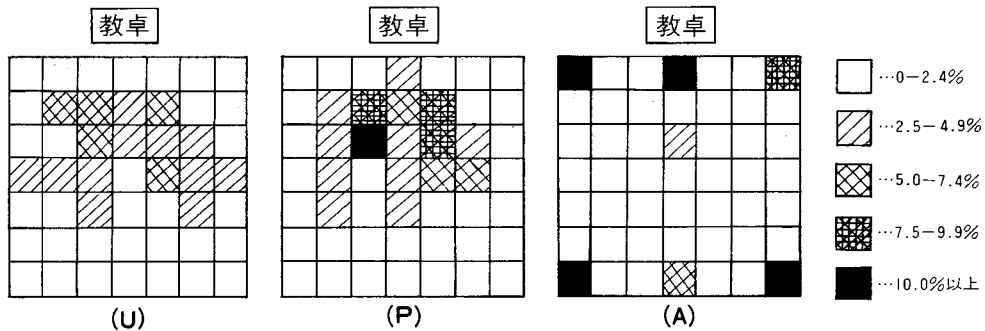


図2 通常位置(U)、希望位置(P)、忌避位置(A)の選択分布

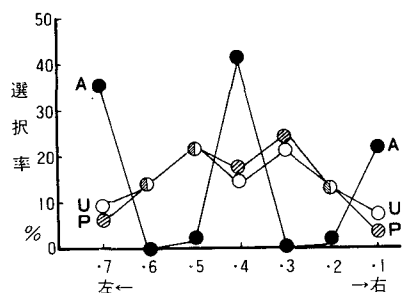


図3 左右列に投影した通常位置(U), 希望位置(P), 忌避位置(A)の選択率

左右端列者は左右中央を避け、左右中央に座っている者は左右端列を避ける傾向が強い。

他に、後列者ほど左右中央を避け([Uf × Ars] : -.240), 前後中央列者は左右中央を避ける([Ufs × Ars] : .177)などの傾向もみられる。

#### (4) 友人位置

クラスで一番仲の良い友人の位置(F)は本人の通常位置にきわめて近く、両者は高い相関を示す(表1)。通常位置と友人位置が同一区画の者は9.3%にすぎないが、両者の差が一区画以内の者は90.7%にのぼり、さらに、一区画以内の差で同一前後列である者は85.1%である。すなわち、通常位置と友人位置とは前後方向での一致度が特に高く、仲の良い友人とは隣りに並んで座っていることがわかる。

#### (5) 通常位置と希望位置・忌避位置との差

各個人における通常位置と希望位置の差(D-UP)と通常位置と忌避位置の差(D-UA)を指標にしてみる(表1)。通常位置と希望位置が一致しているのは前列で、後列ほど差が大きくなる([Uf × D-UP] : .283)。また、通常位置と忌避位置の差が大きいものは前列で後列ほど差が小さい傾向がわずかにある([Uf × D-UA] : -.151)。

#### (6) 座席移動性

座席の移動性(Sh)については、前列ほど小さく後列ほど大きい([Uf × Sh] : .419)。また、最前列と最後列が小さい傾向もみられる([Ufs × Sh] : -.166)。通常位置と友人位置の差が大きい者ほど移動性が小さい傾向もややみられる([D-UF × Sh] : -.159)。

### [3] 座席行動指標と性格特性の関連について

#### (1) 性格因子得点

座席行動指標と各因子得点(粗点)との間の相関係数を表2に、前後列・左右列に投影した各因子得点平均値を図4および図5に示す。

各因子について、次のような関係が見出された。

D因子(抑うつ性)…前列者ほど低く、高列者ほど高い(p<.01)。左右中央列者は低く、左右端列者ほど高い傾向がある(p<.1)。D得点の高い者ほど移動性が大きい(p<.01)。

C因子(回帰性傾向)…前列者ほど低く、後列者ほど高い(p<.05)。

I因子(劣等感の強さ)…後列者ほどやや高い傾向がある(p<.1)。I得点の高い者ほど移動性が大きい傾向がある(p<.1)。

N因子(神経質)…前列者ほど低く、後列者ほど高い(p<.05)。

O因子(主観性)…前列者ほど低く、後列者ほど高い(p<.05)。

Co因子(非協調性)…最前列者が特に低く、後列者ほどやや高い傾向がある(p<.1)。また、左右中央列者は低く、左右端列者ほど高い(p<.01)。

表2 座席行動指標と性格因子・系統値の相関表

|                | 性 格 因 子  |               |                 |          |          |                |           |                       |             |                      | 系 統 値    |                      |            |            |            |            |            |
|----------------|----------|---------------|-----------------|----------|----------|----------------|-----------|-----------------------|-------------|----------------------|----------|----------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|                | 抑鬱性<br>D | 回帰性<br>傾<br>C | 劣等感<br>の強さ<br>I | 神経質<br>N | 主観性<br>O | 非<br>調 性<br>Co | 攻撃性<br>Ag | 一般<br>的<br>活 動 性<br>G | の<br>き<br>R | 思 考 的<br>外<br>向<br>T | 支配性<br>A | 社 会 的<br>外<br>向<br>S | A<br>系 統 値 | B<br>系 統 値 | C<br>系 統 値 | D<br>系 統 値 | E<br>系 統 値 |
|                |          |               |                 |          |          |                |           |                       |             |                      |          |                      |            |            |            |            |            |
| 座席移動性(Sh)      | .216*    | .126          | .141            | .100     | .076     | -.026          | -.059     | -.034                 | .123        | -.048                | -.038    | -.006                | .073       | .080       | -.138      | -.087      | .050       |
| 通前後性(Uf)       | .226**   | .161          | .130            | .190     | .180     | .140           | .155      | -.017                 | .135        | -.110                | -.070    | -.009                | .157       | .160       | -.286**    | -.148      | .056       |
| 常前後両端性(Ufs)    | -.021    | -.026         | .000            | -.025    | .037     | -.082          | .047      | .049                  | .117        | .068                 | .107     | .164                 | -.078      | .108       | -.023      | .081       | -.038      |
| 位左右性(Ur)       | -.038    | -.004         | .025            | .014     | -.087    | .020           | -.048     | .026                  | .054        | -.078                | -.124    | -.087                | -.074      | -.008      | .078       | .003       | .063       |
| 置左右両端性(Urs)    | .151*    | .069          | .087            | .116     | -.049    | .206           | -.108     | -.128                 | -.006       | -.055                | -.065    | -.174                | -.063      | .035       | .028       | -.095      | .185       |
| 希望前後性(Pf)      | .223**   | .205          | .169            | .227     | .135     | .157           | .027      | -.100                 | .186        | -.036                | -.023    | -.002                | .138       | .155       | -.265      | -.161      | .091       |
| 望前後両端性(Pfs)    | -.036    | -.004         | -.007           | .027     | -.003    | -.010          | .094      | .136                  | .161        | .058                 | .175     | .172                 | .062       | .076       | -.122      | .062       | -.140      |
| 位左右性(Pr)       | -.060    | -.141         | -.010           | -.085    | -.157    | -.058          | -.168     | -.137                 | -.015       | .074                 | .137     | -.163                | -.018      | .181       | .179       | .013       | -.000      |
| 置左右両端性(Prs)    | .219**   | .017          | .142            | .129     | .002     | .078           | -.284**   | -.203                 | -.109       | -.068                | -.162    | -.192                | .112       | -.115      | .002       | -.222      | .196       |
| 忌前後性(Af)       | -.134*   | -.114         | -.117           | -.197    | -.014    | -.108          | -.002     | .102                  | -.115       | .067                 | .138     | .115                 | -.067      | .063       | .113       | .143       | -.131      |
| 避前後両端性(Afs)    | -.127    | -.045         | -.053           | -.163    | -.056    | -.663          | .112      | .121                  | .039        | -.001                | .111     | .096                 | -.057      | .007       | .045       | .111       | -.098      |
| 位左右性(Ar)       | .037     | .074          | -.020           | .001     | .087     | .022           | .178      | -.019                 | .002        | -.003                | -.026    | -.029                | .099       | .025       | -.112      | -.026      | -.055      |
| 置左右両端性(Ars)    | -.091    | -.024         | -.053           | -.172    | -.071    | -.066          | .059      | .101                  | .009        | .134                 | .150     | .115                 | -.043      | .051       | -.009      | .116       | -.117      |
| 友前後性(Ff)       | .287***  | .152          | .164            | .166     | .185     | .074           | .122      | -.049                 | .158        | -.077                | -.042    | .093                 | .165       | .174       | -.307**    | -.146      | .045       |
| 人前後両端性(Ffs)    | -.160    | -.084         | -.088           | .103     | -.091    | -.072          | -.042     | -.034                 | -.014       | .111                 | .060     | .062                 | -.046      | -.099      | .132       | .067       | -.048      |
| 位左右性(Fr)       | -.027    | -.002         | .065            | .014     | -.057    | -.035          | -.076     | .026                  | .008        | -.067                | -.056    | .003                 | -.084      | .010       | .069       | .009       | .065       |
| 置左右両端性(Frs)    | .074     | -.050         | .057            | .109     | .075     | .217           | -.084     | .008                  | .049        | .130                 | .052     | .012                 | -.043      | .079       | -.032      | -.043      | .097       |
| 通常と希望の距離(D-UP) | .093     | -.019         | -.003           | .062     | .047     | .094           | .042      | .034                  | -.065       | -.119                | -.170    | -.070                | .073       | -.029      | -.044      | -.086      | .049       |
| 通常と忌避の距離(D-UA) | -.116    | -.028         | -.043           | -.157    | -.036    | -.079          | -.010     | .071                  | .027        | .157                 | .150     | .118                 | -.047      | -.015      | .052       | .124       | -.123      |
| 通常と友人の距離(D-UF) | -.027    | -.076         | .108            | .036     | -.041    | .013           | .010      | -.028                 | -.149       | -.071                | -.122    | -.065                | .026       | -.104      | .068       | -.038      | .027       |

\* p<.1 \*\* p<.05 \*\*\* p<.001

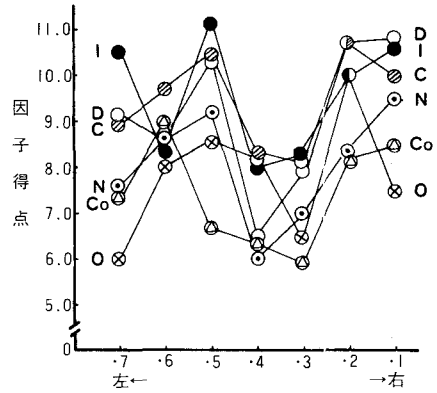
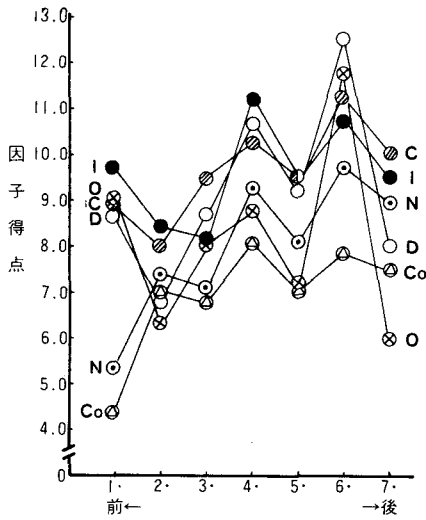


図4 前後列・左右列に投影した性格因子得点(1)

Ag 因子 (愛想の悪いこと, 攻撃性)…前列者ほど低く, 後列者ほど高い ( $p < .05$ ).

G 因子 (一般的活動性)…左右両端がやや低い傾向がある (ただし,  $p > .1$ ).

R 因子 (のんきさ, 衝動性)…後列者ほど高いが ( $p < .1$ ), 前後端列者ほどやや高い傾向もみられる (ただし,  $p > .1$ ).

T 因子 (思考的外向)…前列者ほどやや高く, 後列者ほど低い傾向がある (ただし,  $p > .1$ ). 左右方向では, 両端と中央列に位置する者が高い W 字形の曲線を描いている。

A 因子 (支配性)…前後両端者がやや高い傾向があるが (ただし,  $p > .1$ ), 左右方向では右列者ほどやや高い傾向がある (ただし,  $p > .1$ ).

S 因子 (社会的外向)…前後両端者が高く, 前後中央列ほど低い ( $p < .05$ ). 左右中央列者が高く, 左右端列者ほど低い ( $p < .05$ ).

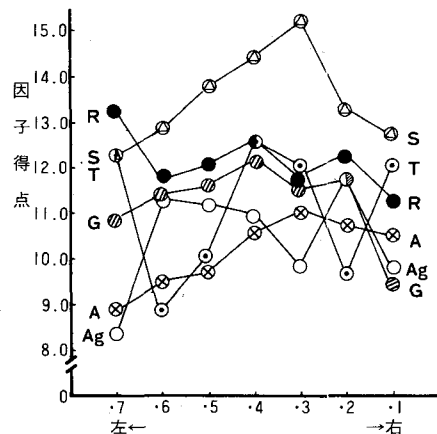
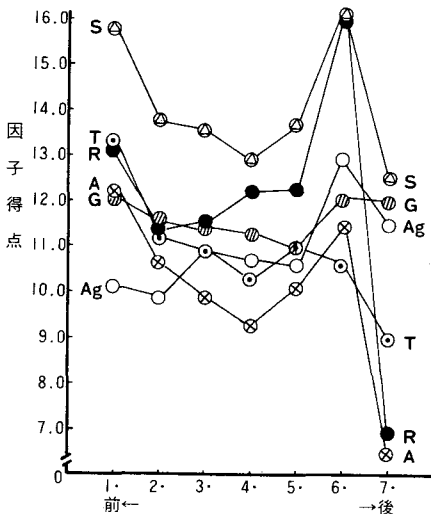


図5 前後列・左右列に投影した性格因子得点(2)

(2) 座席位置と不安定性・積極性

性格因子得点について, D, C, I, N, O, Co の 6 因子を高次の「不安定性」, Ag, G, R,

T, A, S の 6 因子を高次の「積極性」としてまとめ (辻岡, 1974), その平均値を各列毎に算出する (図 6)。

図 6 より, 次のことが結論される。①不安定性と座席の前後はほぼ直線的な関係にあり, 前列者ほど安定的, 後列者ほど不安定的である。②不安定性と座席の左右はひ字形または V 字形の関係にあり, 左右中央列者は安定的で, 左右端列者が不安定的で, 左右最端列に位置する者は再びやや安定的である。③積極性と座席の前後は, 最後列を除けば, U 字形関係をなし, 前後の中間には消極的な者が位置するが, 前後の端に近い位置には積極的な者が多い。④積極性と座席の左右はなだらかな逆 U 字形の曲線をなし, 左右中央列者が積極的であり, 左右端列者ほど消極的である。

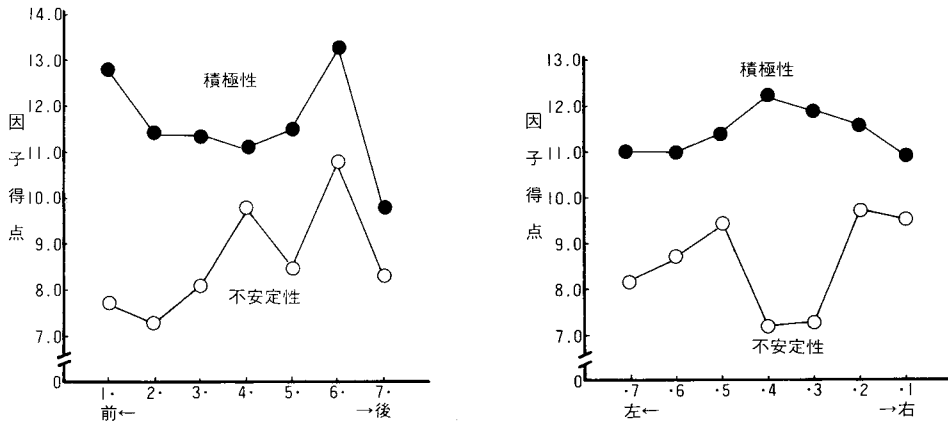


図 6 前後列・左右列に投影した不安定性(D, C, I, N, O, Co)と積極性(Ag, G, R, T, A, S)の平均値

### (3) 座席位置と Y-G プロフィールによる系統値

図 7 は, 前後列・左右列に投影した各系統値である。表 2 より各系統値と座席行動指標の間に有意な相関が得られたものを列挙する。

- ① A 系統値：前列者は小さく, 後列者ほど大きい ( $p < .05$ )。
- ② B 系統値：前列者は小さく, 後列者ほど大きい ( $p < .05$ )。
- ③ C 系統値：前列者ほど大きく, 後列者ほど小さい ( $p < .001$ )。
- ④ D 系統値：前列者ほど大きく, 後列者ほど小さい傾向がある ( $p < .1$ )。
- ⑤ E 系統値：左右中央の者は小さく, 左右両端ほど大きい ( $p < .05$ )。

また, C 系統値の高い者ほど移動性がやや小さい傾向がある ( $p < .1$ )。

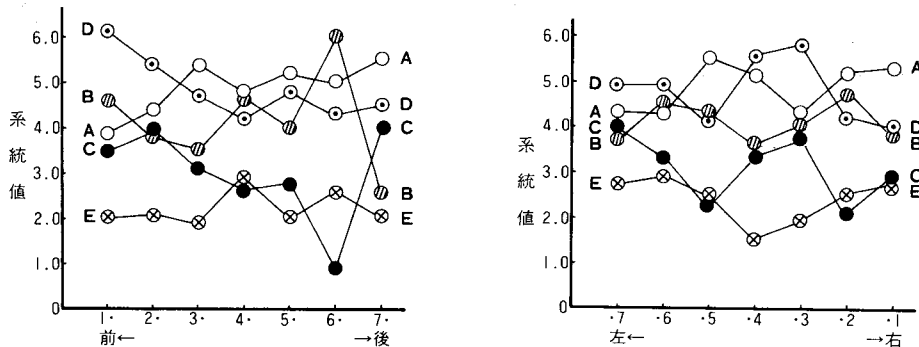


図 7 前後列・左右列に投影した Y-G プロフィール系統値

(4) 座席位置とY-Gプロフィール

①前後方向

図8は、第2, 4, 6前後列の平均プロフィールである。前列から後列になるにつれ、右下り型から右寄り型へ移行する傾向がある。この変化は、主に、情緒不安定因子(D, C, I, N)と不適応因子(O, Co)の得点が後列ほど大きいことによる変化である。

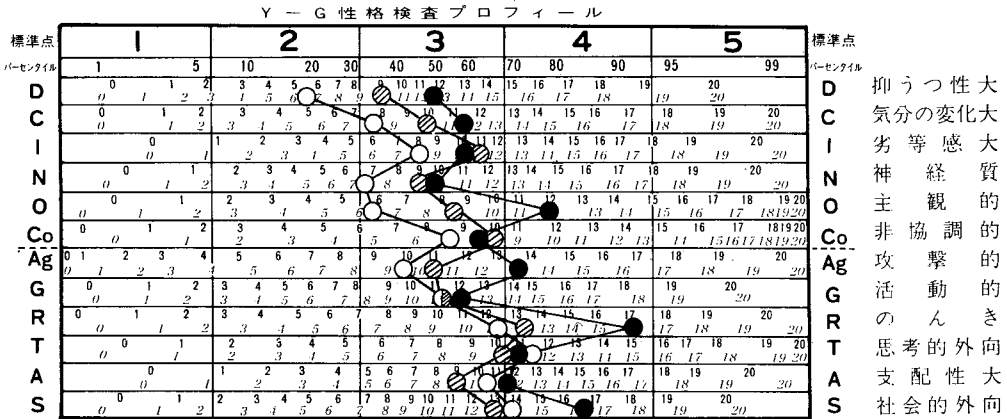


図8 第2前後列(○—○), 第4前後列(⊗—⊗), 第6前後列(●—●)のプロフィール

図9は、最前列と最後列のプロフィールである。両者の座席位置は極端に離れてはいるが、情緒的安定性についてはほとんど差がなく、外向性を示す因子(R, T, A, S)に差がある。ただし、最前列は9名、最後列は2名の資料である。

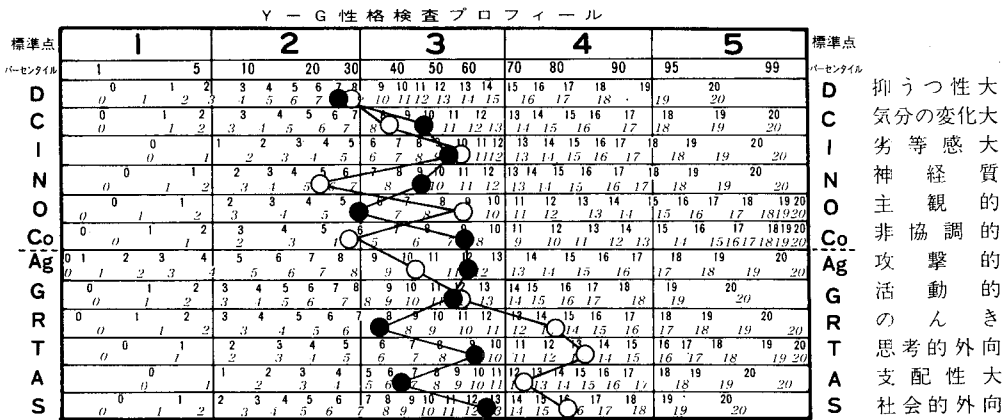


図9 第1前後列(○—○)と第7前後列(●—●)のプロフィール

②左右方向

図10は、左端列、左右中央列、右端列のプロフィールである。両端列はよく類似して平均型であるのに対し、中央列は右下り型的である。

Y-G 性格検査プロフィール

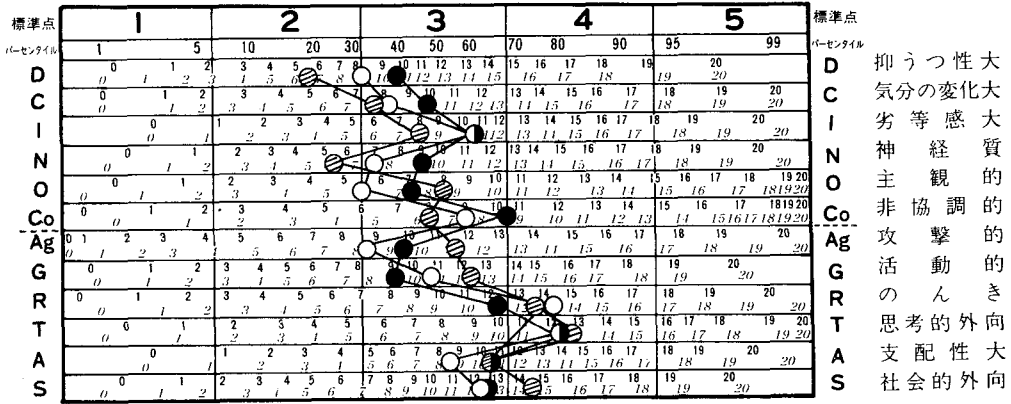


図10 第1左右列(○—○), 第4左右列(◐—◐), 第7左右列(●—●)のプロフィール

(5) 性格類型典型者の座席位置

性格類型が典型又は準型と判定された学生の座席位置を前後方向, 左右方向で集計する(表3)。

前後方向では, D型(安定積極型)は前寄りに分布し, B型(不安定積極型)は前後中央よりやや後寄りに分布し, C型(安定消極型)とE型(不安定消極型)は最前列を避けながら前寄りに位置している。

左右方向では, D型が中央列に多い分布をなすのに対し, B型の分布は中央列と左右端列を避けた分布を示し, E型もB型と同様の分布を示すが, C型は左端に偏っている。

表3 性格類型典型・準典型者の座席位置(前後列, 左右列に投影した人数)

|        | 不安定型<br>(E, E'型) | 安定型<br>(C, C'型) | 平均型<br>(A, A'型) | 不安定型<br>(B, B'型) | 安定型<br>(D, D'型) | 計          |
|--------|------------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|------------|
| 最前列 1・ | 0                | 0               | 0               | 2 (33.3)         | 4 (66.7)        | 6人 (100%)  |
| ↑      | 2・ 3 (11.1)      | 3 (11.1)        | 3 (11.1)        | 3 (11.1)         | 15 (55.6)       | 27 (100%)  |
| ↑      | 3・ 1 (3.8)       | 1 (3.8)         | 6 (23.1)        | 4 (15.4)         | 14 (53.8)       | 26 (100%)  |
| ↑      | 4・ 2 (9.5)       | 1 (4.8)         | 0               | 9 (42.9)         | 9 (42.9)        | 21 (100%)  |
| ↑      | 5・ 0             | 0               | 3 (21.4)        | 3 (21.4)         | 8 (57.1)        | 14 (100%)  |
| ↑      | 6・ 0             | 0               | 0               | 5 (100.0)        | 0               | 5 (100%)   |
| 最後列 7・ | 0                | 0               | 0               | 0                | 0               | 0          |
| 左端列 7・ | 0                | 3 (37.5)        | 0               | 1 (12.5)         | 4 (50.0)        | 8人 (100%)  |
| ↑      | 6 2 (13.3)       | 2 (13.3)        | 1 (6.7)         | 4 (26.7)         | 6 (40.0)        | 15 (100%)  |
| ↑      | 5 2 (10.0)       | 0               | 4 (20.0)        | 6 (30.0)         | 8 (40.0)        | 20 (100%)  |
| ↑      | 4 0              | 0               | 2 (16.7)        | 1 (8.3)          | 9 (75.0)        | 12 (100%)  |
| ↑      | 3 2 (9.1)        | 0               | 0               | 5 (22.7)         | 15 (68.2)       | 22 (100%)  |
| ↑      | 2 0              | 0               | 3 (18.8)        | 7 (43.8)         | 6 (37.5)        | 16 (100%)  |
| 右端列 1・ | 0                | 0               | 2 (33.3)        | 2 (33.3)         | 2 (33.3)        | 6 (100%)   |
| 計      | 6 (6.1)          | 5 (5.1)         | 12 (12.1)       | 26 (26.3)        | 50 (50.5)       | 99人 (100%) |

## 考 察

### 〔1〕通常位置の分布特徴

今回の調査で、左右方向に二峰形の分布が得られた。このような分布形は、平尾ら（1964）、深沢ら（1965）と共通している。

前回の調査（北川，1978）では二峰形分布が得られなかったので、今回、座席区画を5×5から7×7へときめ細かくしたことによって表出してきた分布特徴と考えられる。その左右中央にある分布の落ち込みは、左右中央列が忌避位置として集中的に選択されていることと表裏の関係にある。

では、なぜ左右中央列が忌避されるのだろうか。物理的理由としては、左右中央列からは黒板が教師の陰になって見えにくいことがあるが、心理的理由としては、教師と正面位置になるため、教師からの刺激が強すぎる（例えば、eye-contactの機会が多すぎる）ことが考えられる。後者の理由の間接的な証拠としては、左右中央列者には、教師からの強い刺激にも耐えることのできると考えられる安定積極的なD型の性格が多いことがあげられよう。

左右中央列忌避の傾向は、四隅忌避の傾向とともに、教室における座席分布の一般的特徴と考えてよいのではないだろうか。

座席分布は、必ずしも左右相称形になっていない。他にも同様の左右非相称がみられた。①忌避位置として左端列の方が右端列よりも多く選択された。②左端列者の方が右端列者よりも移動性が大きい。③不安定性因子(D, C, N, O, Co)の得点は、左端列者の方が右端列者よりも高い。④積極性因子では、G, R因子の得点が右端列者より左端列者の方が高く、Ag, A因子は逆に左端列者よりも右端列者の方が高い得点を示す。⑤性格類型典型者の座席位置では、C型、E型の者が左列に偏る。これらの現象の一般性や原因は今のところ分らないが、座席行動の左右非相称性として注目しておきたい。

### 〔2〕座席位置に対する好悪感情

教室の座席位置に対して学生は明確な好悪感情をもっている。その好悪感情には個人差があるとしても、各々の好悪感情に比較的忠実に従って着席位置を選択・決定しているといえよう。このことは、学生の心理が座席行動に素直に表現されているという主張をさらに強める証拠である。

座席位置の決定には、座席位置への好悪感情、すなわち、「正の指向性（あの席に座りたい）」とともに「負の指向性（あの席には座りたくない）」が働いていることが分ったが、負の指向性については、これまでの座席行動研究では言及されていない。忌避位置に個人差が明瞭に表れることから、座席行動の規定因としての負の指向性の重要性を指摘しておきたい。

希望位置と忌避位置の間関係をみると（表4）、正負の指向性には一定の対応関係のあることがわかる。特に、前列希望者ほど左右端列を忌避し、後列希望者ほど左右中央列を忌避すること（[Pf×Arc]：-.300）は、通常位置と希望位置の間、性格特性と座席位置の間にみられた関係と共通している。これらの関係は、座席位置のもつ情緒的な意味の共通部分の広がり、前後列又は左右列のような一次元上から、前列と左右中央列、後列と左右端列のような二次元上に及びうることを示唆している。

### 〔3〕友人位置について

仲の良い友人とは横に並んで授業をうける。親和的で心理的に接近し合う者同志が空間的にも近くに位置することは容易に理解できるが、教室の座席では、なぜ前後に位置せずに左右に並ぶのであろうか。

表4 希望位置と忌避位置の相関表

|                  |             | 希 望 位 置       |                |               |                |
|------------------|-------------|---------------|----------------|---------------|----------------|
|                  |             | 前 後 性<br>(Pf) | 前後両端性<br>(Pfs) | 左 右 性<br>(Pr) | 左右両端性<br>(Prs) |
| 忌<br>避<br>位<br>置 | 前 後 性 (Af)  | -.406***      | -.010          | -.023         | -.130(*)       |
|                  | 前後両端性 (Afs) | -.321***      | .022           | -.003         | -.199*         |
|                  | 左 右 性 (Ar)  | -.033         | -.002          | -.028         | -.035          |
|                  | 左右両端性 (Ars) | -.300***      | .050           | -.050         | -.294***       |

(\*) p<.1 \* p<.05 \*\*\* p<.001

渋谷 (1978) に従って考察してみよう。個人空間は、個体の身体をその中心とした4つの層から構成され、前方に広く、両側方から後方にかけて密になる卵型をしている。もし、2人が並んで座っているとすれば、個人空間の軸の方向は互いに平行になり、2人は空間的に接近していても、両者の個人空間は比較的外側の層が重なっているにすぎないことになる。そのため、通常、両者は互いの心理的交渉に気を煩わすことなく授業に集中することもできるが、また一方、両者は体(顔)の向きを少し変えるだけで、「親密空間」(渋谷, 1978)を重ね、きわめて親密な交渉をすることも可能なのである。

このように、横に隣り合う座り方は、親しい者同志(親しくなる可能性のある者同志)が、空間的移動や体の向きを大きく変えることなく、親密な交渉と没交渉とをコントロールするのに非常に都合がよいことになる。

Cook (1970) によれば、2人が隣り合う位置を選択するのは、協同作業場面であり、また、社会的関係では、ボーイ(ガール)フレンドと一緒に座る場合であるという。ソマー (1972) も、同様に、隣り合う位置は協力活動の時に選択され、その理由は、物の受け渡しが容易であるから、としている。教室における授業場面も、協同作業場面と共通性があると考えられる。さらに、ソマーによれば、女子は男子よりも隣り合う席を選ぶことが多いという。Evans (1973) も、これまでの personal space 研究を概観して、personal space には性差があり、対人距離の大きさは、男女、女女、男男の順に大きくなる、とまとめている。教室の座席行動にも性差があるのかもしれない。

#### [4] 座席行動と性格特性について

相関係数は必ずしも高くないが、座席移動性および通常位置と性格特性の間に有意な相関関係を見出したと結論できるであろう。

前列ほど、また、左右中央列ほど安定積極的な学生が位置している、という調査結果は、座席位置を教師への対人距離に還元できるという主張を支持する。前列の学生ほど、同一前後列ならば左右中央列の学生ほど教師との対人距離が近いといえるからである。

しかし、上の主張は全面的に支持されたわけではない。積極性の6因子については、座席の前後と因子得点の関係は直線的とはいえないからである(図6)。特にS因子(社会的外向)は、前列者とともに後列者も得点が高いU字形の曲線を描いている(R, T, A 因子も同様の傾向を示す、図5)。

議論をS因子に代表させて進めると、教室の前半の学生については、座席の前後と外向性とは確かに直線関係(前列ほど外向的)にあり、これまでの向性と対人距離についての研究結果を支持する。しかし、教室の後半については、その関係は逆転しており(後列ほど外向的)、いままでの知見と矛盾する。

70～100名定員の比較的大きな教室で、しかも空席がある場合、教室の後半部は教師からの距離が3～4 m以上あり、ホール(1970)の「公衆距離」に相当する。教師との距離が公衆距離ほど大きい後列の学生にとって、教師は個人的な心理的交渉の対象となりにくい、あるいは、教師との間に公衆距離を保とうとする後列の学生は個人的交渉の対象として教師を選んでいない、といえるのではないだろうか。

すなわち、教室の前半部の学生にとって外向的態度を向ける対象は教師であるかもしれないが、後半部の学生にとってその対象は教師ではなく友人なのではないだろうか。外向性の高い学生は、その外向性を教師に向ける場合は、できるだけ前列に位置して、教師との対人距離を小さく保とうとするが、外向性を友人に向ける場合は、できるだけ後列に座って教師からの刺激を少なくし、友人との友情を確認し合うのではないだろうか。

今回の調査では、外向性が情緒安定性と結びついた時に教師との対人距離を小さくするが、情緒不安定性と結びついた時には教師との距離をむしろ大きくとる、という結論を得た。このように、ある性格因子が座席位置と直線的な関係になるか否かは、その性格因子と他の性格因子や他の要因、例えば、教室の広さ、学生数、教師の魅力、学生の授業への興味や学習意欲などとの相対的な関係に依存しているのではないかと考えられる。

## 要 約

教室内の座席行動と性格との関係を調べるため、短大生に座席行動調査とY-G性格検査を実施した。得られた結果は次のとおりである。

1. 通常位置、希望位置の分布に、左右中央列の落ち込みがある。
2. 通常位置は、座席位置への好悪感情に従って選択されている。
3. 友人位置と通常位置は、前後方向での一致度が高い。
4. 前列ほど、前後端列ほど座席の移動性が小さい。
5. 座席位置と性格特性の関係
  - ①座席の前後方向では、不安定性と直線的関係にあり、前列ほど安定的であり後列ほど不安定的である。積極性とはU字形的関係で、前寄りほど、また、後寄りほど積極的であり、前後の中央は消極的である。
  - ②座席の左右方向では、不安定性とひ字形的関係にあり、左右中央列が安定的、左右最端列がやや安定的である。積極性とは逆U字形的の関係で、左右中央列ほど積極的で、左右端列ほど消極的である。
6. 性格類型典型者の座席位置をみると、D型(安定積極型)は、前寄り、左右中央寄りに分布し、B型(不安定積極型)は、その分布がD型よりやや後寄り、左右中央列と左右最端列を避けて位置する傾向があり、C型(安定消極型)とE型(不安定消極型)は、最前列・左右中央列を避けて前寄りに位置する傾向がある。

## 付 記

本研究の統計処理には岡山理科大学情報処理センターの大型計算機を使用させていただいた。使用を許可して下さった塚本幸雄センター所長、いろいろと便宜をはかって下さった永谷雄生業務課長はじめ職員の皆様にお礼申し上げます。また、プログラム作成でアドバイスをいただいた小林清美さんに感謝します。

## 引用文献

- Cook, M. 1970 Experiments on orientation and proxemics. *Hum. Relat.* **23**, 61-76
- Evans, G. W. & Howard, R. B. 1973 Personal space. *Psychol. Bull.* **80**, 334-344
- 深沢文彦, 西形雄次郎, 菱山珠夫 1965 慢性分裂病者の行動特性 — 座席の生態学的研究 — *精神経誌*, **67**, 1197-1205
- ホール 日高敏隆, 佐藤信行 (訳) 1970 *かくれた次元* みすず書房 (Hall, E. T. 1966 *The Hidden Dimension*. New York: Doubleday & Company, Inc.)
- 肥田野直, 瀬谷正敏, 大川信明 1961 *教育心理統計学* 培風館
- 平尾武久, 台 弘 1964 講堂における座席の成立 — 個体行動の類型化とその Dynamics — *精神経誌*, **66**, 987-1003
- 北川歳昭 1978 座席行動の研究 (I) — 教室内の座席行動と成績 — *中国短期大学紀要*, **9**, 51-56
- 中園正身 1970 女子学生の Personal Space *教育心理学会第12回総会発表論文集*, 254-255
- 渋谷昌三 1975 人の空間行動 *学習院大学哲学会誌*, **3**, 88-112
- 渋谷昌三 1978 図解 社会空間モデル試論 *学習院大学文学部研究年報*, **25**, 157-172
- ソマー 穂山貞登 (訳) 1972 *人間の空間* 鹿島出版会 (Sommer, R. 1969 *Personal Space: The behavioral basis of design*. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice-Hall, Inc.)
- 田中政子 1973 Personal Space の異方的構造について *教育心理学研究*, **21**, 223-232
- 辻岡美延 1974 新性格検査法 — Y-G 性格検査実施・応用・研究手引 — 竹井機器工業 KK